

ゲノム編集技術で遺伝子を改変した双子が誕生したとする中国当局の調査結果を、中国メディアが報じた。事実だとすれば、実際に子どもが生まれた世界初の例となり、国内の生命科学の研究者らから非難の声が上った。

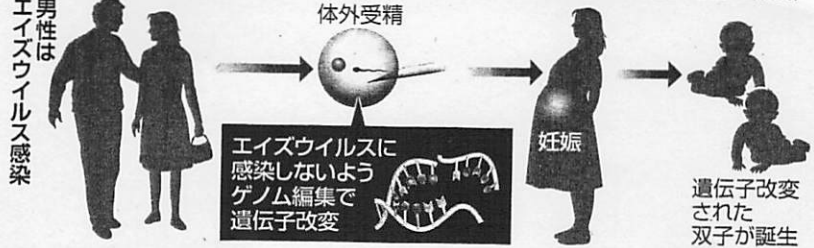
「科学者の暴走」 研究者の非難

国立成育医療研究センターの松原洋一所長は、「倫理的問題を十分に検討せずに、突き進んでしまった。科学者の暴走だ」と批判した。北海道大の石井哲也教授（生命倫理）は、「先天異常の子どもが生まれるか

もしれず、子どもの意思とは無関係に、親の同意だけで行われてしまうのは人権的にも問題だ」と指摘した。今回のゲノム編集は、エイズウイルス（HIV）に感染しないよう、体外受精の際に遺伝子を改変したと

ゲノム編集は、遺伝子を効率よく改変できる一方、想定外の遺伝子を改変してしまう恐れが指摘されている。受精の段階での遺伝子改変は、その影響が生まれる子どもだけでなく、その子孫に及ぶ恐れがある。

◆ゲノム編集ベビーを誕生させたとされる研究（賀建奎氏の発表を基に作成）



【広州＝角谷志保美】中国広東省深圳の大学の研究者が遺伝子を効率よく改変できる「ゲノム編集」技術で受精卵を操作して双子を誕生させたとする問題で、中国国営新華社通信は21日、広東省の調査チームが、この研究者が「個人の名誉と利益のため、国家が禁じている生殖目的でのヒトの受精卵のゲノム編集を行った」と結論付ける初期調査結果を明らかにしたと報じた。

この研究者は、南方科技大学の賀建奎博士。新華社によると、賀氏は2016年6月から中国大陸外の人物も含むプロジェクトチームを組織し、自己資金で研究に取り組んだ。研究は17年3月、18年11月に、男性だけがエイズウイルス（HIV）に感染したボランティアの夫婦8組の参加を募って実施された。ゲノム編集された受精卵により、最終的に2人が妊娠。うち1人は双子の女

児を出産し、もう1人は現在も妊娠中という。研究を認める倫理審査書は偽造されたものだった。調査チーム関係者は新華社に対し、「国家の関係規定に著しく違反し、国内外に悪影響を与えた」と指摘。賀氏と、研究に関わった人物や機関は「法律と規則に基づいて厳粛に処理する」と述べた。犯罪の疑いがある点については、公安機関に処理をゆだねるとい

ゲノム編集ベビー誕生確認

中国調査チーム「国規定に違反」

新華社報道

また、既に出産された双子と妊娠中の実験参加者に対しては、広東省が関係機関と協力し、医学的な観察と追跡調査を行うとしている。

ただ、禁止する対象は、遺伝子治療を目的とした臨床研究や、生殖補助医療に役立つ基礎研究で、医療行為に対する規制はない。厚生労働省は「技術の進展が速い分野の規制は指針が適当」として法的規制には慎重だ。

石井教授は「指針では罰則もなく、限界がある。体外受精を行うおとして、親らに、リスクがある医療行為に安易に参加しないよう注意を促していくことも重要だ」と話す。

1組女子 新誌望
2019.1.15分
読克新聞